

講義名	児童福祉論			
担当教員	加藤 曜子			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

<b>主題と概要</b> 児童福祉は18歳未満の子どもと家庭を対象にし、児童福祉法の理念に基づいた実践学問である。理念としては、子どもの権利にのっとり、その課題を明らかにしていく。現状は生きる力や自立の力を養うべき家庭や所属集団の中で、虐待いじめ、不登校など深刻な問題が生じている。このような子どもの健全育成、要保護児童や児童の発達上、発生する問題を具体的にとりあげ、法律、政策、子どもと家庭の福祉の理念を通じ、どのような解決が試みようとして行われているのかを理解する。諸関係法律、諸関係機関、施設との連携、相談援助のありかたも学ぶ。
--

<b>到達目標</b> 児童家庭福祉入門からのアドバンスとして位置付ける。 講義では、概論だけでなく、具体的な支援場面において、子どもと家庭に向けた具体的な方法や支援方法を理解する。社会的看護や、地域での支援を理解する。また社会問題として子ども虐待問題や、貧困問題、保健福祉関係についても実践課題を通じ理解する。予防的な分野から治療的な分野まで幅広い活動の理解を深める。
<b>提出課題</b> テーマを選び、実際に自分たちに関心のある活動についてレポートをする。例えば児童館活動を理解する。ステップファミリーの問題を考える、虐待問題を子どもの立場から考えるなど。

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b> 毎回のテーマでの課題を振り返りつつ、進めていく。また提出したレポートについては、テーマごとで取り上げていきたい。
--

<b>評価の基準</b> 出席、レポート提出、授業態度、試験から総合的に評価する。出席を重視する。成績評価の対象は、授業の欠席回数が総授業回の3分の1以下の受講生のみである。授業全体で出席回数が一定に満たない場合（出席が11回未満の場合）、「放棄」となる。*オンデマンドの場合は毎回提出する課題やレポートにより評価する。
---

<b>履修にあたっての注意・助言他</b> 社会福祉士事務資格の一つなので、公務員志望の人は、取得しておく。また 社会福祉士の国家試験受験資格科目であることも念頭においてください。
---

<b>備考</b> 子ども時代を振り返りつつ、親、家庭について福祉分野として、どのような問題がまだ構わっているのか、それをどう解決できているのか、他人事ではなく、自らも考えることで、より生きやすい社会をつくるにはなにができるのかを参加して考える姿勢を持つことを求めます。
--

<b>教科書</b> ・使用しない。					

<b>プリント資料及び参考文献</b> プリント資料あり 参考文献 児童虐待ソーシャルワーク論 才村純 2005 有斐閣 児童虐待は今 津崎哲郎編 2010 ミネルヴァ書房 子どもの虐待の理解・対応・ケア 2011 福村出版 ネットワークされた子どもへの支援 2016 明石書房
---

<b>授業計画</b> 1. 児童福祉関連分野の組織と機関の理解 2. 母子保護の対策 3. 心身障がい児の施策 4. 児童健全育成の施策 5. 保育の施策 6. 保護を受ける児童の施策 7. 児童虐待問題 8. 児童虐待問題 ケア 9. 配偶者間暴力と子ども 10. ひとり親家庭の課題 11. 子ども支援と社会的看護の課題 12. 子どもの相談援助活動 13. 子どもの相談援助活動 基本的留意点 14. 子どもの相談援助活動 施設ケアと自立支援 *オンデマンドの場合においても同じ計画で進めます。 15. まとめ
--

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b> ○ ア：PBL（課題解決型学習） □ ウ：ディスカッション、ディベート △ オ：プレゼンテーション ◇ キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） エ：グループワーク カ：実習、フィールドワーク
---	--

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> 1. 予習 児童家庭福祉は、心理学や社会学などの基本をベースにした応用的な実践学として支援理論を展開している部分もあります。また地域福祉論や政策論なども関係してきます。そのため、制度論や歴史などを目こころから親しみ、かつ疑問をもっておいてください。2時間が必要となります。 2. 復習 復習では、前回の授業を通じて得た知識について振り返り、さらに展開部分についてふたたいと思います。2時間を要します。
---

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b> ・健康マネジメントコース 1. 健康・スポーツ・食文化・福祉を中心とした学習により、「健康」をキーワードとする関連事業分野、業務の運営管理・経営能力を身につけている。 2. 健康・スポーツ志向、食の安全、介護予防などについてその社会的背景と今後の課題と対応策について分析、企画する能力を身につけている。
--

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b> 子どもや家庭の問題について自分の見識や経験に基づいて、それぞれの課題やテーマについて教師との交流を図る。
---

<b>実務経験の有無及び活用</b> 司法ソーシャルワーカーとしての経験ならびに、児童問題について日頃、実務や行政とのかかわりを持っており、それらについて活用する。
---

<b>備考</b> 子ども時代を振り返りつつ、親、家庭について福祉分野として、どのような問題がまだ構わっているのか、それをどう解決できているのか、他人事ではなく、自らも考えることで、より生きやすい社会をつくるにはなにができるのかを参加して考える姿勢を持つことを求めます。
--